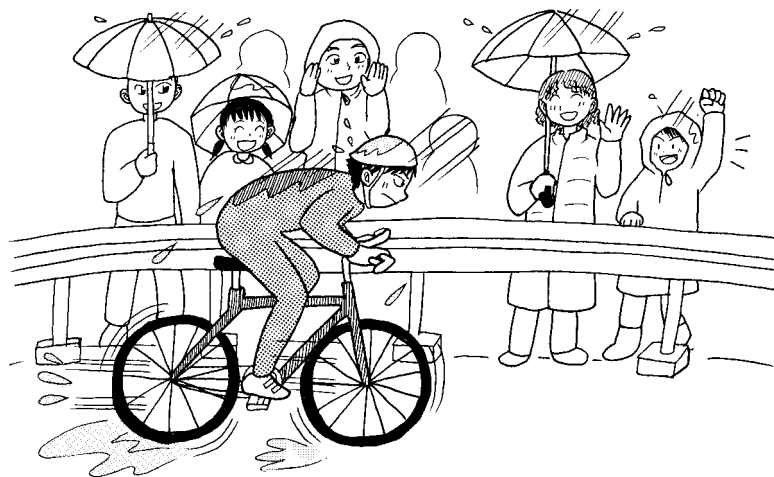


コルチゾールとアミラーゼ活性を指標とした局所と全身の温熱的快適性評価

研究代表者 福岡女子大学 深沢太香子

本報告の第一の特徴は皮膚濡れ率の温熱的快適感に及ぼす閾値を求めた点にあります。

本報告の二番目の特徴は実験条件の設定です。体温変動の激しい運動実験中の正確な湿度測定には露点温度が最適ですし、運動強度の設定にも工夫が見られます。本報告で得られた結論は局所の温熱的快適感の閾値には部位差があり、腕部と大腿部の閾値は体幹部より小さい、つまり腕部と大腿部は体幹部より温熱的快適感覚が敏感ということです。しかし、局所の温熱的不快感が全身の温熱的快適感へ及ぼす影響は小さく、全身の濡れ率が $w = 0.2 \pm 0.08$ 以下であれば、全身の温熱的快適感維持されると結論しています。さらに、温熱的に不快な状態下でのみ、皮膚濡れ率の増加に応じて増加するアミラーゼ活性は、閾値のことを考えれば、まさに温熱的快適性評価の指標に成っていると言えます。しかし、コルチゾールについては温熱的快・不快のいずれの状態に対しても、相関性は見られませんでした。本報告の三番目の特徴は徹底した検証と議論の進め方です。本研究の進め方をみると、安心できます。この分野の研究を始められる方々の参考になりましょう。



腕部と大腿部は体幹部より温熱的快適感覚が敏感だが、局所の不快感が全身の快適感に及ぼす影響は小さい。

